

# 「正月」について、日米比較っぽいお話 校長 馬場 智也



「思い」に目を向けるとそれぞれに自分を振り返り将来や未来に希望をもつとともに、人とのつながりを大切にすることがあるようです。

2013年の大晦日、私はニューヨークのタイムズスクエアに立っていました。毎年、テレビで見ていた光景を、せっかくなかアメリカに住んでいるのだから生で見たいと家族5人でやってきたのだから。と文章で書くとなんだかキラキラして格好良い感じに聞こえますが、実際はなかなかヘヴィな体験でした。テレビでご覧になったことのある方はご存じだと思いますが、とにかく人・人・人、すごい人出です。この日私たちがカウントダウンを祝うために現地入りしたのは午後3時でしたが、すでに多くの人が詰めかけていました。それらの人々は、イベントスタッフや警察の誘導に従って会場にあるいくつかのブロックごとに詰め込められていくのです。なかなか窮屈な状態で深夜0時の新年まで9時間も待たなくてはなりません。子供が退屈しないようにポータブルDVDをもっている、寒さ対策としてカイロを張り付けたスキーウェアを着込ませました。お手洗いは近くのお店に毎回チップを払って使わせてもらいます。この年のニューヨークは東海岸に強い寒気が張り出しており、すでに氷点下。カウントダウンイベントの方は、午後6時から一時間ごとに花火があがるようになり、ステージではアーティストたちのライブも始まりです。その瞬間瞬間は、周囲の方々と「わあ、きゃあ」と一緒にはしゃぎ楽しいのですが、とにかく寒い。翌日1月1日はお昼でもマイナス16度でしたから、夜はもっと冷え込んでいたことでしょう。午後8時の花火を見ながら、「きれいだね」とふと当時年長の娘の顔を見ると顔は真っ青、唇は紫色になっているではありませんか。「これは、いかん。」妻に、

ホテルに帰る提案をし、私たちは新年のカウントダウンを生で見えることを断念したのでした。帰る途中の駅も人・人・人。子供の手を絶対に離さないようにして歩いていると、近くで銃声が二発。なんだかんだと慌てて電車に乗り、降車駅からホテルまでの道を歩いている頃にはすでに雪が積もり始めていました。さて、肝心のカウントダウンはというと、温かいホテルの部屋で、いつもどおりテレビで視聴し家族だけで年越しすることになりました。

(にせぐみ) (今の青年団)のお手伝いで。甌島には「トシドン」という秋田県の「なまはげ」のような風習があります。稚児組は、「トシドン」が訪問する家庭に先回りし、大きな餅をもらってきます。そして、もらった餅を「トシドン」が子供に説教している間に「トシドン」の後ろに置いておきます。「トシドン」はあらかじめその親から聞いていた子供の失敗やいたずらについて説教します。「なまはげ」と同じような恐ろしい面をつけていますので、子供は当然泣きわめきます。しかし、最後には「トシドン」の諭すような語り口で、子供たちはしゃくりあげながらも「はい、はい」と話を聞いていきます。説教が終わると「トシドン」は子供の背中に餅を置いて、新年の励ましを与えるという流れになっているのです。泣いている小さい子供を見ながら、「手伝いをしてる自分は、ちょっと大人の仲間入りをしているのかな」と思ったのを覚えています。行事へのかかわりとおしてその意義や社会とのつながり、自身の成長など多くのことを感じ学んだのだと思います。

「正月」に焦点を当てると日米ではその価値は変わってきますが、「思い」に目を向けるとそれぞれに自分を振り返り将来や未来に希望をもつとともに、人とのつながりを大切にすることがあるようです。

翌日、朝のニュースで昨夜の発砲事件についての報道があり、犯人はすでに捕まったとのこと。そこで、家族で再びタイムズスクエアを訪れることにしました。この日の朝は日本では元日ですが、ニューヨークにとってはすでに日常であり、普段通りの出勤風景。ふらふらしているのは観光客ばかり。実はアメリカの方々にとって「正月」というのはそれほど重要ではなく、二月にあるサンクスギビングや三月のクリスマスの方が盛大に祝われます。家族や親戚が集まって互いの健康をよるごび先祖や神に感謝するとともに、ごちそうを食べたり、プレゼントをもらったり買い物に行ったりするのです。近頃日本でも「ブラックフライデー」という言葉が出てきましたが、本来これはサンクスギビングデー（11月第4木曜日）その前は休日となります。後の金曜日に、多くの人々が家族や親せきと一緒に買い物に出かけるため、どんな小売店でも黒字になることから「ブラックフライデー」と言われるようになったもの。そんな風習のない日本にいざなり「ブラックフライデー」だけをもちてきても違和感を感じないのですが、欲しいものが安くなるのなら「まあ、いいか」という感じですね。

2024年の大晦日、そして2025年の元旦をここ宮之浦で私は迎えます。宮之浦ではどのような思いが紡がれ引き継がれてきたのか、益救神社の鐘の音を聞きながら感じる機会を得たことをうれしく思います。そして、令和7年2月には宮浦小学校創立150周年式典が開催されます。これまでの卒業生や地域、保護者など学校にかかわってきてくださった方々、そしてこれからも宮浦小学校で学び続ける子供たちが幾星霜も変わらぬ絆でつながる機会となればと願っています。

◆(写真) 持久走大会で走ってきた道のりを振り返る6年生。走り続けた年の終わりの一枚。共に走った仲間との絆を胸に、希望しかない未来へと走り始める。

—ところで、1983年の大晦日、私は小学校6年生で、現在の薩摩川内市甌島の手打に住んでいました。この日、夕方から稚児(ちこ)組(今の)の子供会のよななものですが自治的でした)は、二才組

※ 甌島(いせしら)……多くの年月が流れたことを象徴的に示した言葉)

◆(写真) 海岸清掃の道すがら





宮浦小学校卒業生Jリーガー

大分トリニータ

# 高橋大悟選手サプライズ訪問



宮浦SSS-神村学園中-神村学園高-清水エスパルス-ギラヴァンツ北九州-清水エスパルス-ギラヴァンツ北九州-清水エスパルス-FC町田ゼルビア-現在



◆正門を取り外して塗る様子

こちらも宮浦小学校の大先輩方。じいじばあばの会の皆様が、正門のサビ落とし&ペンキ塗りを！見事にリニューアルしていただきました。とても頼りになる存在です。これからもよろしくお願いいたします！

**古くサビだらけの正門を綺麗にしてくださいました！**

## 僕は故郷屋久島を誇りに思っています。

本当にびっくりしました！オフを利用したの突然のサプライズ学校訪問！！昼休みの宮浦小学校は大騒ぎ。宮浦小学校の大先輩のお話を伺うことができました。

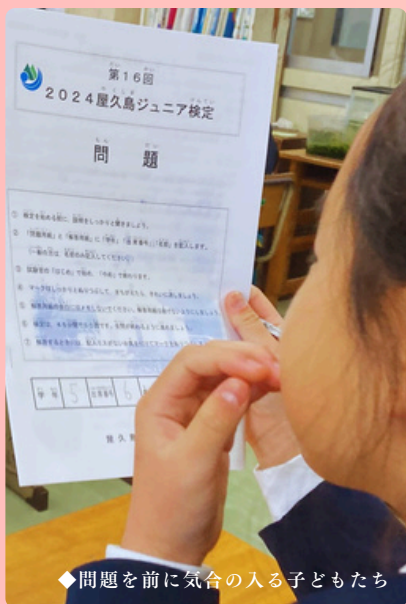
「三苦選手やイニエスタ選手との闘い」そして「故郷屋久島を誇りに思う」という高橋選手のお言葉には、とてもとても深いものを感じました。2月8日の150周年式典では、スペシャルインタビュー動画で再登場！御期待ください！

  
**2024.12.24**  
**屋久島町立宮浦小学校**  
**進め！宮浦っ子**  

**12月**

## 故郷の良さを知る 屋久島ジュニア検定

5・6年生が受験！内容は屋久島の「自然・環境」、「文化・伝統」、「地理・歴史」、「産業」などの分野から。自分たちの故郷を愛し、学ぶ大切な機会となりました。



◆問題を前に気合の入る子どもたち



## 激走！校内持久走大会

子どもたちが本気の走りを見せてくれました！たくさんの御声援に心から感謝しております！




◆多くの参加を頂きました

## PTA：朝ごはんの大切さを学びました！

学校保健会では、貴重な御講演を通して、朝ごはんの大切さについて再認識させて頂きました！！



◆「1」と書かれた札を手に

ありがとう <sup>2024</sup>  
ようこそ  
 <sup>2025</sup>

		1月
8	水	始業式
9	木	校内席書会, 委員会活動9⑥
11	土	土曜授業
14	火	生活習慣予防講座出前講座(5校時)3年生
15	水	鹿児島学習定着度調査(5年生②国語, ③理科) スタディギア for Eikenベーシック(6年)
16	木	鹿児島学習定着度調査(5年生②社会, ③算数)
17	金	4校交流会③④, 中学校説明会(2時間)⑤⑥
23	木	クラブ活動7⑥